

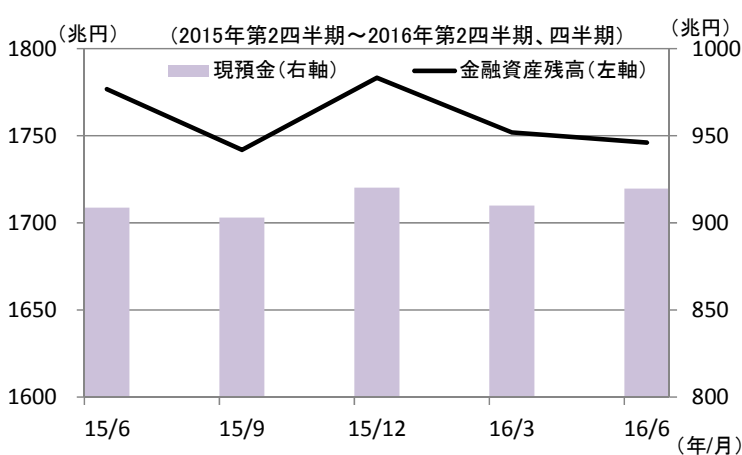
投資信託は資金流入も残高減少続く (資金循環統計)

- ◆ 金融資産残高は前年同月（2015年6月）末から約30兆円減少
- ◆ 投資信託は約9兆7千億円の資金流入も残高は14兆円減少
- ◆ 株式や投資信託が減少したのに対して現預金は約11兆円増加

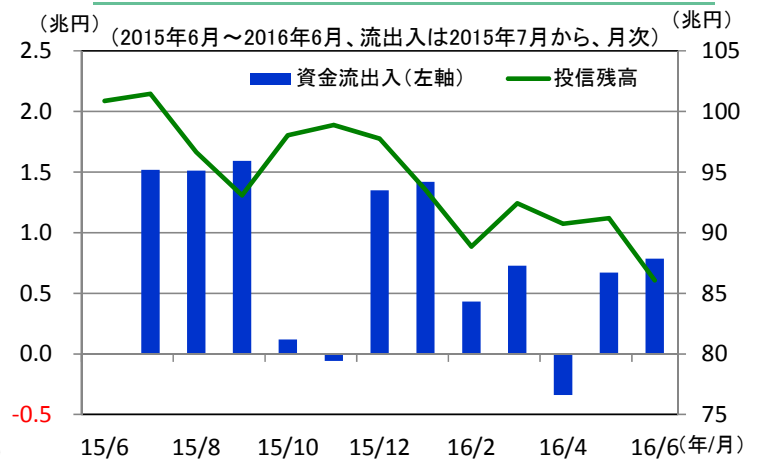
日本銀行が9月26日に発表した資金循環統計によると2016年6月末の家計の金融資産残高は1,746兆円と前年同月（2015年6月）末から約30兆円（1.7%）減少しました（図表1）。資産別では、株式等が約-28兆円（172兆円→144兆円）、投資信託が約-14兆円（100兆円→86兆円）と減少しました。投資信託については、2015年7月～2016年6月の期間には累計で約9兆7,000億円の資金流入となっており（図表2）、残高の減少は主に円高進行や株価下落などの影響を受けたものと考えられます。一方で最も残高の多い現預金については、約11兆円（1.7%）増加しており（図表1、3）、金融市場の不透明感から投資を控え現預金として保有する動きが増したものと日銀はみています。

このように、直近の投資信託の残高や資金流入額は減少していますが、2012年後半頃からの資金流入傾向は継続しています（図表4）。今後の市場動向次第では再び現預金などから「投資」資金として資金流入額が増加し、残高が増加傾向に転じることも考えられます。

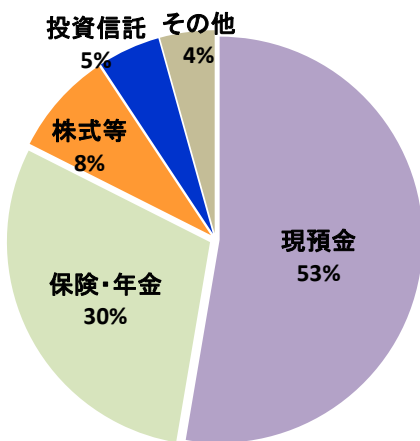
図表1：日本の家計金融資産残高の推移



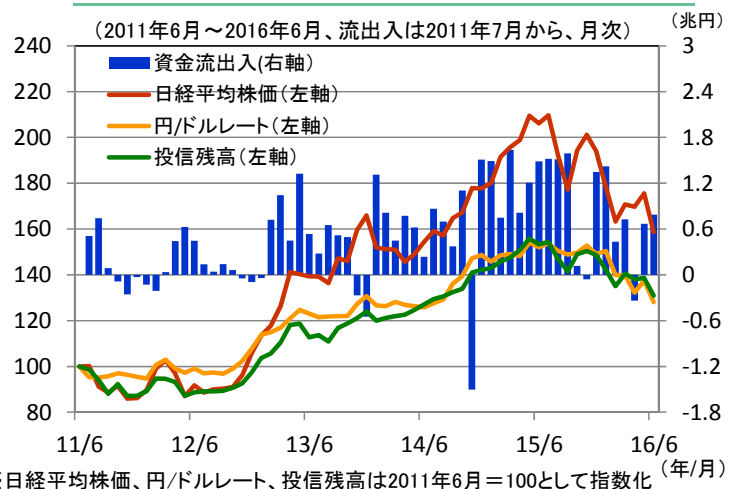
図表2：投信の残高・資金流入の推移



図表3：家計金融資産の構成比 (2016年6月末)



図表4：投信の残高・資金流入と株価・為替の推移



出所：図表1、2、3は日本銀行のデータ、図表4は投資信託協会のデータを基にニッセイアセットマネジメントが作成

●当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。●当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料のグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。●投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。●手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品をお勧めするものではないので、表示することができません。●当資料のいかなる内容も将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。